

学科名	電気通信工学科、電気電子工学科、建築・デザイン学科、情報学科						
科目名	生物化学Ⅱ						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	後期		
必修・選択の別	選択						
担当者	大貫宏一郎						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の最小単位である細胞の小器官とその役割を説明できる ・水分子の極性をもとに、親水性と疎水性を解説できる ・糖質、タンパク質、脂質の生体における機能を説明できる ・生体機能を調節する酵素、ビタミン、ミネラルの機能を説明できる 						
日程と内容	<p>第1回：導入講義、授業の進め方と概要の説明、成績評価法など。</p> <p>第2回：細胞の構造と機能</p> <p>第3回：生体と水</p> <p>第4回：生体エネルギーのメカニズム</p> <p>第5回：糖質の構造、分類、性質および代謝</p> <p>第6回：タンパク質の構造、分類、性質および代謝</p> <p>第7回：脂質の構造、分類、性質および代謝</p> <p>第8回：核酸の構造、分類、性質および機能</p> <p>第9回：酵素の分類、性質、活性および速度論</p> <p>第10回：ビタミンの分類、欠乏症および補酵素としての役割</p> <p>第11回：ホルモンの構造、分泌器官、作用および分類</p> <p>第12回：ミネラルの役割や作用</p> <p>第13回：植物の機能や代謝</p> <p>第14回：物質の濃度</p> <p>第15回：総合復習</p> <p>定期試験</p>						
成績評価基準	定期試験	100%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題		計	100%			
	演習						
授業到達目標の達成度	予定していた項目はすべて実施して、概ね達成できたと考えている。						
反省点	昨年度は少し高度な授業を目指して理解度が4.3→4.2と0.1ポイント低下したが、今年度は高度な内容をなるべく維持しつつ、分かりやすく満足度の高まる内容にするなど工夫をし、その結果4.2→4.3と0.1ポイント上昇して満足しているが、平易であったためであるとも考えられる。高度な内容を維持しつつ、今後も少しずつ改善していきたいと考えている。						
来年度の計画	項目自体は同様として、内容の充実を図りたいと考えている。						
授業評価アンケートに対するコメント	総合が昨年度と変わらず8.6であり、各項目についても4.3程度の項目が多く、昨年度とほぼ同等の数値であり、満足している。また、自由記述でも、「分かりやすい」「楽しい」が多くみられ、内容を理解してもらい、興味を持ってもらえたことは、成功であったと感じた。来年度も同等以上クオリティを保ちつつ、年々改善がされていくよう心掛けて来年度に臨みたいと考えている。						
履修登録者数	57名	定期試験 受験者数	57名	合格者数	53名	合格率	93%